

医療のIT化の現状と課題

(社)日本画像医療システム工業会
医用画像システム部会
部会長 吉村仁

行政によるIT化戦略

i-Japan戦略2015（内閣官房IT戦略本部 2009.7）

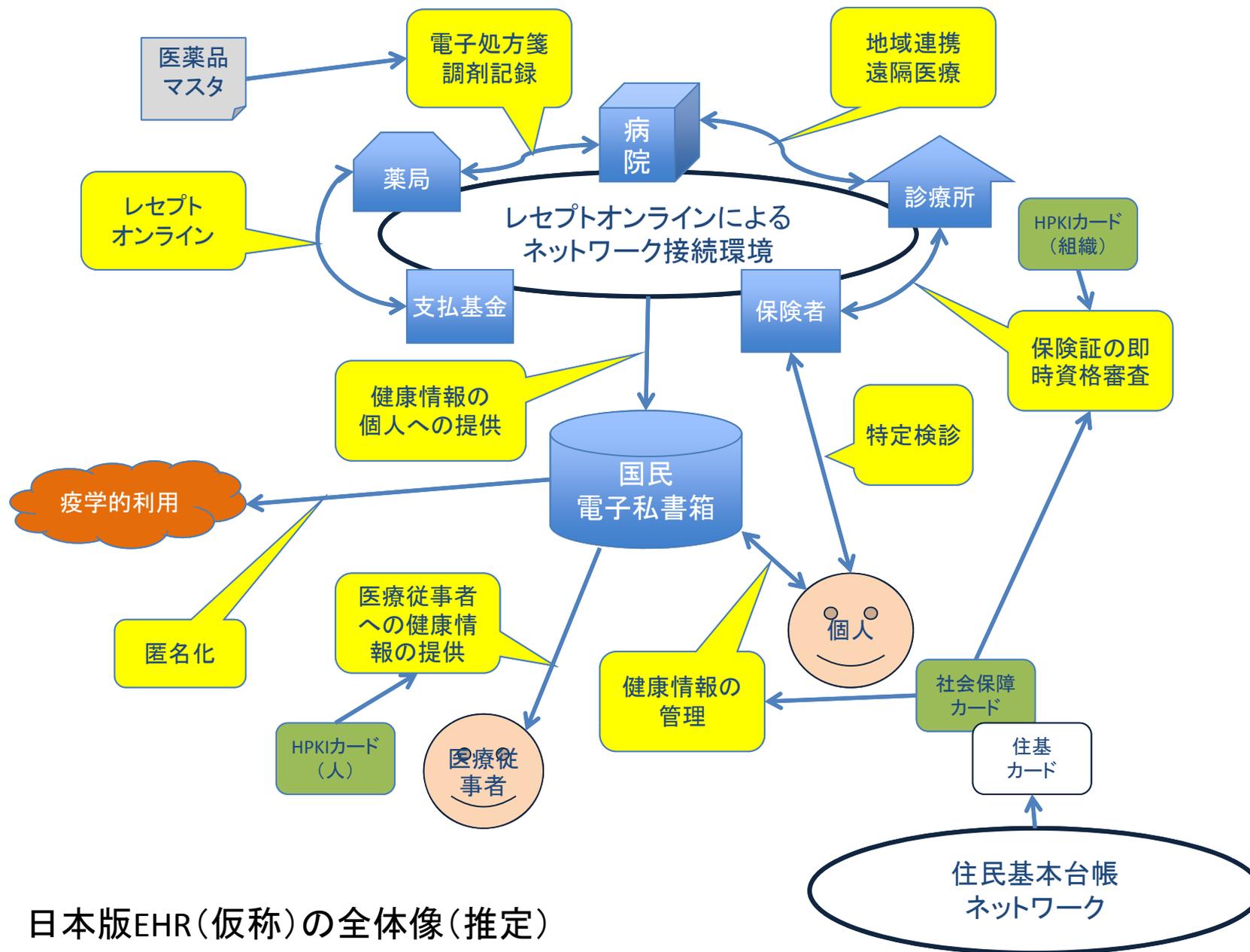
(2) 医療・健康分野

1. 地域の医師不足等の医療が直面する問題への対応

- (1) 遠隔医療技術の活用により画像診断等の専門性の高い医療を受けられるようにする。
- (2) 全国どこでも技術の維持・向上を可能とする。
- (3) デジタル基盤の整備により、業務の効率化や過重労働軽減、経営改善等を図り、地域医療連携を実現
- (4) 救急隊や医療従事者が患者情報を把握し、搬送先の選択及び患者の受け入れを迅速・円滑に行えるようにする
- (5) 関係機関の連携の下で、在宅医療を受ける患者や被介護者の地域特性に応じた健康管理を実現する。

2. 日本版EHR(仮称)の実現

- (1) 個人が入手・管理する健康情報を医療従事者等に提示できるようにする
- (2) 処方せんの電子交付及び調剤情報の電子化
- (3) 匿名化された健康情報を全国規模で集積し、疫学的に活用することにより、医療の質を向上させる。



IT化の効果・効能

- 無駄な再入力が無くなる
- 同時に様々な場所から利用できる
- 情報を「美しく」使い回せるようになる

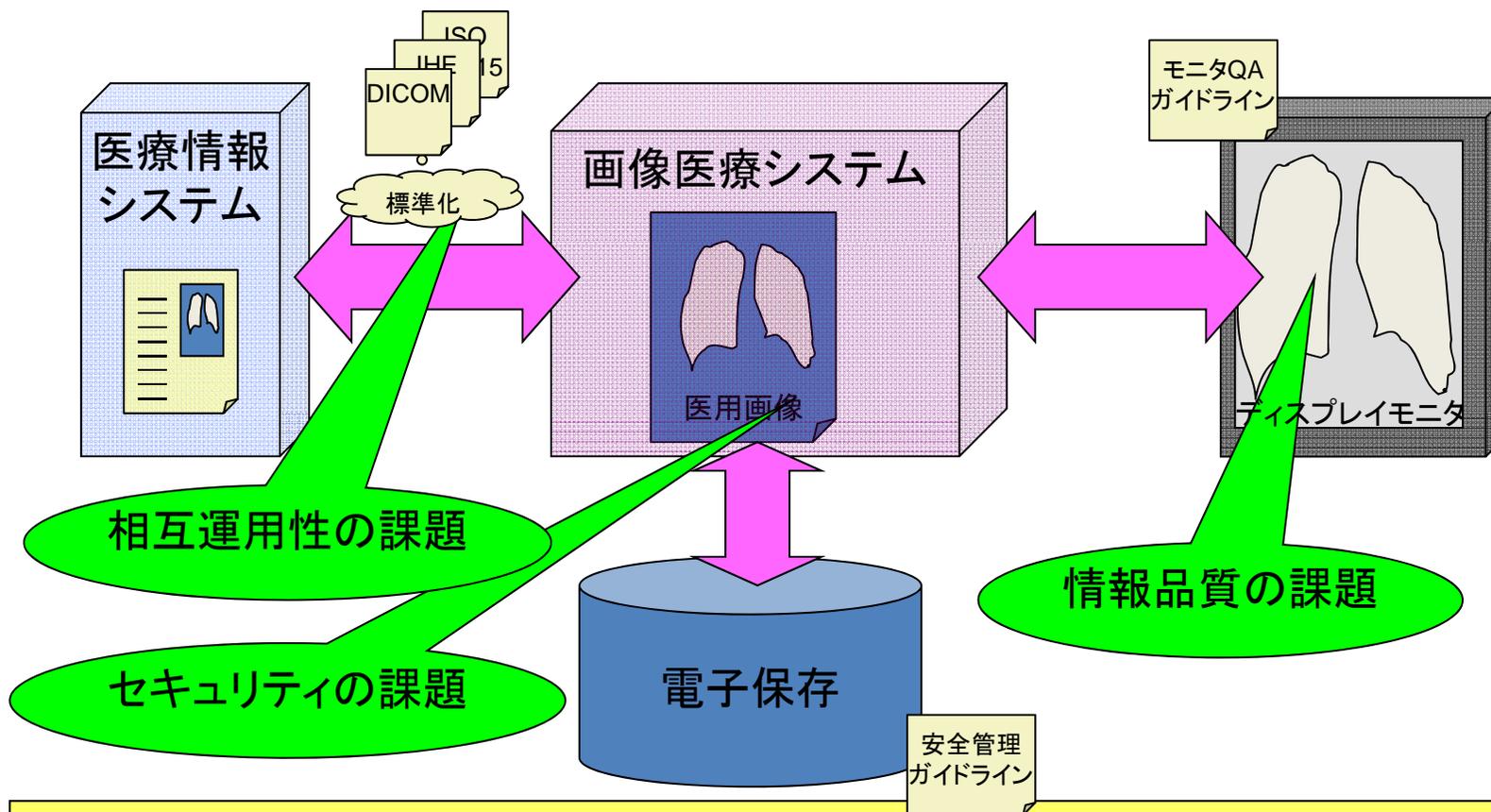
「美しく」が重要

- 精神衛生上好ましい
- 業務の効率化が可能

情報を「美しく」使い回すためには

- 標準化されていること
 - コンテナとして
 - コンテンツとして
 - できれば意味として
- 相互運用性の確保
 - 他のシステムに持ち込んでも意味が通じること
- 相互接続性の確保
 - 他のシステムとちゃんと情報のやりとりができること

画像医療のIT化進展の課題

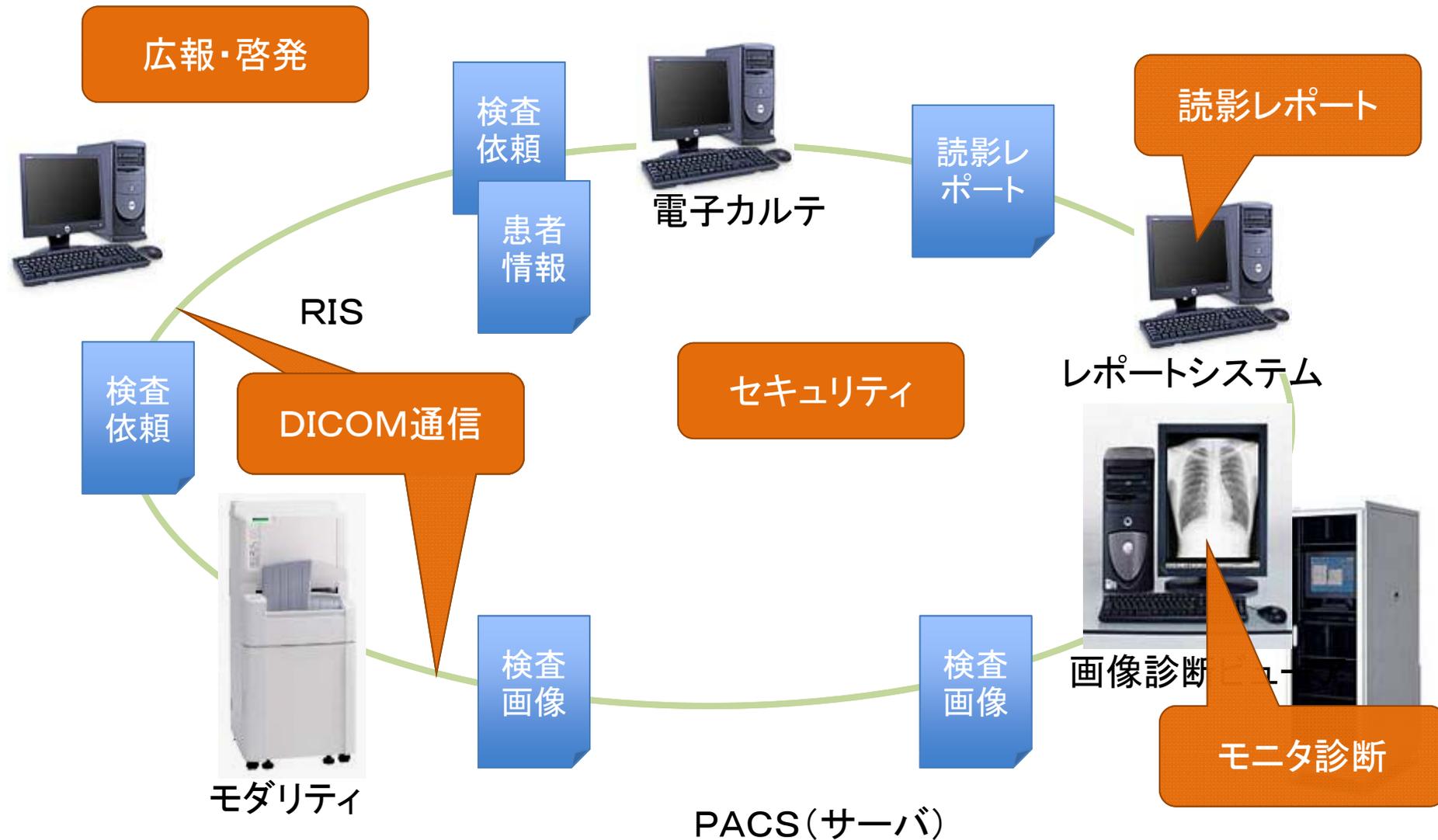


法令：医療法、医師法、個人情報保護法、e-文書法、電子署名法、薬事法……

医療機関内から医療機関間へ

- 医療機関内は運用でごまかせる
- 医療機関間は技術がもろにでる
- PDIでのデータの相互運用性の問題
- ネットワークになったらどうなるのか

画像医療分野における相互運用性



医用画像システム部会の委員会

- 本委員会
- セキュリティ委員会
- DICOM委員会
- モニタ診断システム委員会
- 画像診断レポート委員会
- システム広報委員会(仮称)

医用画像システム部会業務報告会

■プログラム：

- (1) 部会長報告(吉村部会長)
「医療のIT化の現状と課題」
- (2) モニタ診断システム委員会(田中委員長)
「モニタ診断システム委員会活動報告 -JESRA X-0093の現状と今後を中心に-」
- (3) セキュリティ委員会(西田委員長)
 1. ISO/TC215 WG4(セキュリティ)で検討されている国際標準への対応について
 2. 厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に対するベンダとしての取り組みについて
 3. NEMA、COCIRと共同してのグローバルな医療機器セキュリティへの取り組みについて
- (4) DICOM委員会(鈴木委員長)
「最近のDICOMのトピックスとJIRA DICOM委員会の活動について」
- (5) 画像診断レポート委員会(長田委員長)
「画像診断レポート委員会の新たな取り組みについて」
- (6) CyberRad対応委員会(山本委員長)
 1. JRCのCyberRad委員会とは。JIRAのCyberRad 対応委員会の今後について
 2. JIRA発行「画像診断機器産業200X」作成継続支援について
 3. システム部会のホームページ等による広報活動について
- (7) 質疑応答